

住宅用太陽光発電システム設計・施工指針等の見直しに対する意見募集の結果について

平成19年3月16日
住宅用太陽光発電システム
施工品質向上委員会

平成18年11月7日付けで、「住宅用太陽光発電システム設計・施工指針の見直し（案）及び同指針補足（案）」に対する意見募集を行いましたところ、以下のとおりご意見が寄せられました。
ご協力いただき、有難うございました。

1. 実施方法等

- (1) 募集期間：平成18年11月7日（火）～平成18年12月6日（水）
- (2) 実施方法：財団法人新エネルギー財団のホームページに掲載し、ご意見を募集した。

2. ご意見の数

2名8件

3. 提出されたご意見に対する考え方

別紙のとおり

4. 本件に関するお問合せ先

(財)新エネルギー財団 導入促進本部 太陽光発電部 担当：原、小野
電話：03 - 5275 - 9823

提出された意見の概要および対応結果について

意見の概要	対応結果
<p>設計・施工指針(案)第3章 図3.4-1 屋根置き形太陽電池モジュールの施工例</p> <p>当社架台を掲載していただき、誠にありがとうございます。今回の提案は掲載図面仕様が現在は無く新しい仕様を掲載していただければと思います。</p>	<p>現在も使用されている工法の図であり、特に差替える必要は無いと判断した。 また、ご提案の新しい仕様(支持瓦)の例は、3.1.1で紹介している。</p>
<p>設計・施工指針補足(案)第3章 図3.1-6 穴あき瓦の例</p> <p>瓦写真のモニエル型について、2山タイプをモニエル型としているのでしょうか？</p>	<p>モニエル型としたが、一般名でないためM型に訂正する。</p>
<p>設計・施工指針(案)3.3 取り付け方法 【解説】2) 支持金具の材質</p> <p>支持金具・架台の材質は不燃性・耐食性のあるものと明記すべきである。</p>	<p>「支持金具、架台には、長期間の屋外使用に耐えられるよう、<u>不燃性・耐食性のある材料を用いる。</u>」に訂正する。</p> <p>5.3 取り付け方法【解説】6) 陸屋根架台の材料 「陸屋根架台には、<u>長期間の屋外使用に耐えられるよう、不燃性・耐食性のある材料を用いる。</u>」に訂正する。</p>
<p>設計・施工指針(案)3.3 取り付け方法 【解説】4) ケーブルの処理</p> <p>「架台やモジュールの枠部分に固定して配線する。」の部分には、固定用部材の具体的な選定方法を示すべきである。特に、ケーブル固定に広く用いられている“結束バンド”の材質選定に言及すべきである。</p>	<p>「架台やモジュールの枠部分に<u>耐候性のある材料により固定して配線する。</u>」に訂正する。</p>
<p>設計・施工指針(案)図5.1-1</p> <p>電力量計のイラストにある配線が誤っているので訂正してほしい。イラストの趣旨は、配線の正確性を要求しないものだが、明らかな誤配線の図は初心者の誤工事の原因となりうる。</p>	<p>全ての図において配線を正しく訂正する。</p>
<p>設計・施工指針(案)5.3 取り付け方法～ 【解説】5) 多雪地域での配慮</p> <p>多雪地域での太陽電池故障プロセス・故障箇所にはさまざまな種類があり、対策方法も多様である。他の対策手法にも言及する必要がある。</p>	<p>現在の知見を基に、記載内容の追加を行なった。 ～凍結融解の繰り返しや沈降圧(雪が収縮することによる荷重集中)により、モジュールが破損する恐れがある。 また太陽電池モジュールは当該地域の積雪荷重</p>

	<p>に耐える性能、強度を有するものを使用すると共に、必要に応じてモジュールフレームの補強や設置角度（傾斜）を大きくするなどの処置を施し、積雪荷重等の影響軽減を図る。</p> <p>また、設計施工指針補足（案）に、多雪地域での注意事項を追加した。</p> <p>5.2 陸屋根架台設置のための基礎の作り方の例 「～多雪地域での太陽電池故障プロセス・故障箇所には様々な種類があり、対策方法も多様である。例を以下に上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュールはできる限り縦置きとする。こうすることで滑雪が押し出す力を受けるモジュールフレームの下側を、強度の高い短辺フレームで受けることができる。 ・モジュールはなるべく小形のものを用いる。大形モジュールは雪圧によって発電面がフレームから離脱しやすい傾向がある。 ・内フランジ型モジュールの場合、アレイ最下段にL型鋼を添えて機械的強度を増す。」を追加する。
<p>設計・施工指針（案）5.3 取り付け方法 【解説】7）置き基礎設置の配慮</p> <p>屋根防水の保護に当って、ゴムシート材料の選択についても言及すべきである。</p>	<p>「また緩衝用ゴムシートは、材質によっては防水層（塩ビシート等）と化学反応を起こし、劣化させる（硬化、ひび割れ）可能性があるため、その化学的性能も確認すること」を追加する。</p>
<p>設計・施工指針（案）5.3 取り付け方法 【解説】4）ケーブル等の処理</p> <p>保護管の種類について具体的に規定すべきである。具体的にはPFDに限定すべきである。</p>	<p>「長期間の電氣的性能を保つため、直接風雨にさらされないよう、<u>耐候性のある保護管等</u>を用いて配線する。」に訂正する。</p>